

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	民生常任委員会	委員名	石川厚子
視察地	豊田市		
調査事項	環境モデル都市について		
視察年月日	2025年11月11日		
視察内容	<p>1. 環境モデル都市に選定されるに至った経緯</p> <p>豊田市は車のまち。一家に1台ではなく一人1台、車を保有している。その分、排気ガス削減に取り組もうと決意し、京都議定書の低炭素分野で補欠合格した。</p> <p>2. 事業概要</p> <p>個別住宅型を採用</p> <p>発電・売電分散型。ナビを使い最短コースを移動する。</p> <p>生活圏全体では17%、家庭では70%、移動では30%、移動先では17%、CO2が削減された。</p> <p>車の充電も補助金対象</p> <p>スマートハウス減税</p> <p>とよたエコフルタウンについて質問した</p> <p>1. 7haの土地にパビリオン、セミナールーム、水素ステーション、地元食材を使ったレストランなどが配置</p> <p>自動運転車が走行する</p> <p>オープンから2年で70カ国10万人が来訪し、模擬体験を実施</p> <p>3年前に閉鎖し、土地は厚生連に返却した</p> <p>3. 事業の実績、効果</p> <p>トラック・バス477台に水素補助金</p> <p>企業との関係性が構築できた</p> <p>4. 事業の課題</p> <p>30%達成しきれず、まだまだ減らしきれていない</p> <p>5. 視察を通して</p> <p>豊橋で新幹線を降りて、乗り換えて豊田市に着く。何も無い田園風景から一転して40万都市が現れる。車の工場からスタートした都市だということがよくわかった。</p> <p>交付税不交付団体と旭川市は比べモノにならないが、CO2を減らすという意気込みだけは学びたい。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	民生常任委員会	委員名	石川厚子
視察地	静岡市		
調査事項	障がい者就労アセスメントモデル事業について		
視察年月日	2025年11月12日		
視察内容	<p>1. 事業実施までの経緯 障害者、難病患者、ひとり親、ニートなど、なかなか就労に結びつかない「就労困難者」と深刻な人手不足の「企業」を繋げる必要性</p> <p>2. 事業の概要 インクルーシブ雇用推進事業</p> <ul style="list-style-type: none">・就労希望者と企業とを結び付けるマッチング支援・就労希望者への相談支援など <p>「お仕事探しでお困りの方、一人で抱え込まないでまずは相談を」のチラシを町内会（ここがミソ！）で回覧する</p> <p>協力企業向け実践セミナー、マッチング応援フェスタなどを実施</p> <p>3. 具体的な取り組み 脳トレーニング</p> <p>通常、業務に必要と考えられる小学校1～2年生程度の認知度を図る （例）横向きで右手をあげている子の問題と絵を線で結ぶ</p> <p>4. 企業との連携 ダンウェイ株式会社と連携 シームレスバディ能力の可視化 コミュニケーション能力（指示が入らない）について</p> <ul style="list-style-type: none">・赤いボールペンを10本・カレンダーに「今日」は赤、「明日」は黄など <p>障害者は持続力、集中力が優れている場合がある→生産性アップ！</p> <p>5. 国のモデル事業の課題 国のモデル事業では従来型の就労アセスメントの手法の普及が活用されてこなかった 既存の就労アセスメントの手法が一定程度普及しても、ツールの実用性の向上</p> <p>6. 視察を通して 以前、ホクト電子にパートで働いていたが、一定数、聴覚困難者が勤務していた。聴覚困難者は健常者と違い、おしゃべりをせず、黙々と仕事をこなすため重宝がされていた。 障害者と企業がマッチングすることにより、障害者も企業もウイン・ウインの関係が構築できる。そう思わせる視察であった。 なお、新幹線の時刻が迫っていたため、駆け足の視察となってしまったことが少し残念ではある。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	民生常任委員会	委員名	石川厚子
視察地	横須賀市		
調査事項	エンディングプランサポート事業について		
視察年月日	2025年11月13日		
視察内容	<p>1. 事業の背景</p> <p>いま、10人が死亡すると、そのうち1人が無縁遺骨になる</p> <p>2. 事業の概要</p> <p>人生を「健康期」「不健康期」「死」「没後期」に分けると「不健康期」から「没後期」までが「周没期」</p> <p>国立社会保障・人口問題研究所によると、2050年には単独世帯が44.3%、そのうち65歳以上が45.1% 平均世帯人員数は減少し続けている</p> <p>引き取り手のいない遺体が急増。そのほとんどが身元の分かる市民</p> <p>死亡したまちの首長に火葬の義務があるが、納骨の義務はない</p> <p>横須賀市は、引き取り手のないお骨は市が火葬し、納骨堂に安置している</p> <p>納骨堂が一杯になると骨と壺を分け、壺は産廃で廃棄している</p> <p>引き取り手のない遺骨は1993年（バブル崩壊）から増え始め2003年から急増</p> <p>この背景には、携帯電話の契約数が固定電話を上回った</p> <p>遺書を残した人も火葬後に発見されたため、願いはかなえられなかった</p> <p>遠方の甥に連絡するも「叔父とは30年会っていない」と遺骨の引き取り拒否</p> <p>なお、遺骨はゆうパックで送れる（知らなかった！）</p> <p>「終活登録事業」元気なうちに終活情報を市に登録</p> <p>「倒れて入院」「徘徊して保護」など緊急時に市に連絡が来る</p> <p>令和4年度予算額51000円、決算額36956円（安い！）</p> <p>3. 視察を通して</p> <p>横須賀市福祉専門官の北見さんの話が、とても分かりやすかった</p> <p>特に、子どものいない夫婦で先立った亡夫の墓はあるが、遠方の甥、姪などは墓の場所を知らない。その場合、妻の遺骨は引き取り手がないため無縁納骨堂へ</p> <p>妻は「夫と同じ墓に入らずやれやれ」しかし、夫は100年待っても妻は来ない</p> <p>旭川の共同墓も予定を上回るペースで一杯になってきていると聞く</p> <p>近文台分屯地を弾薬庫として利用するのではなく、身元不明者の遺骨の納骨堂として利用しては</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。